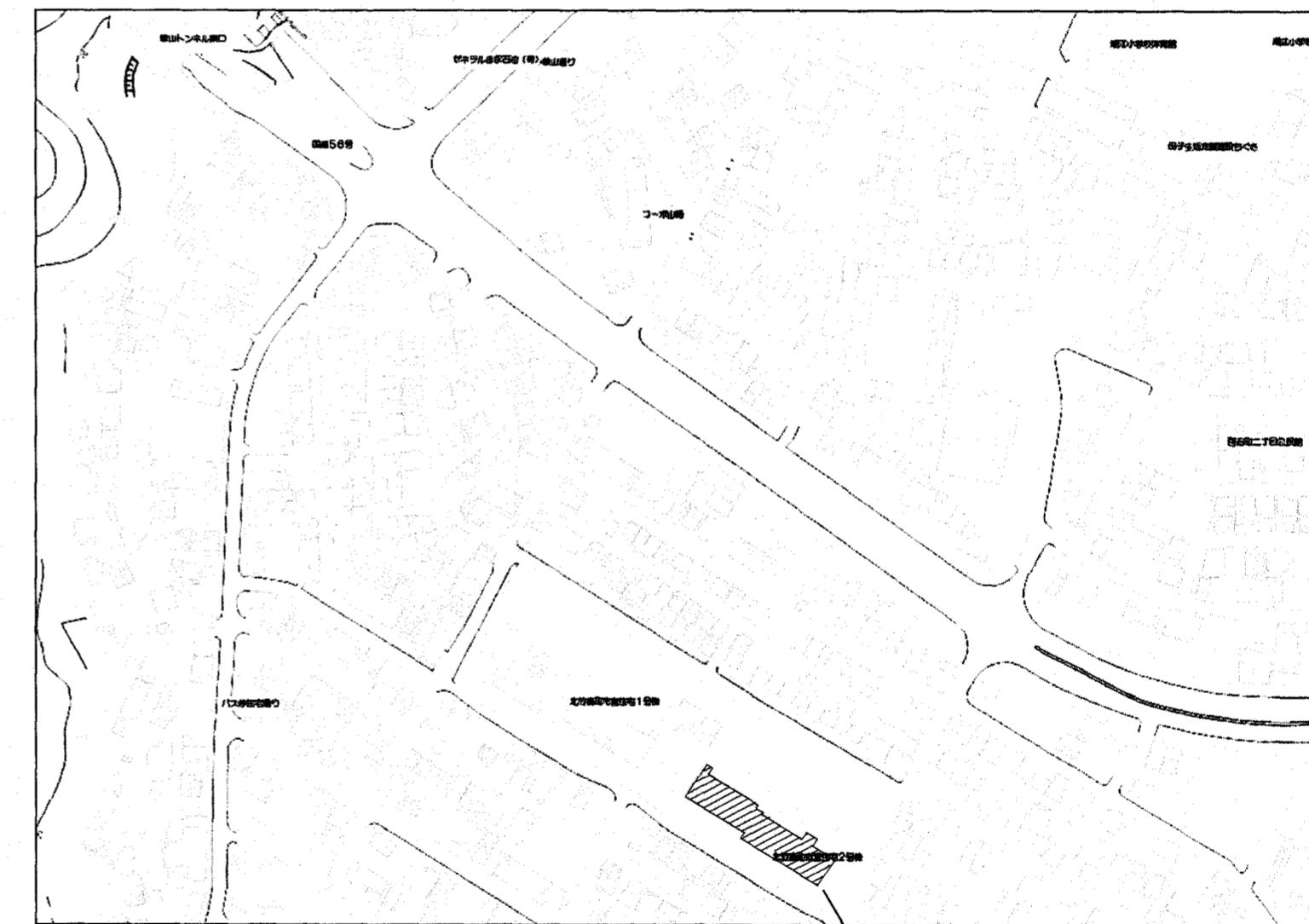


北竹島町市営住宅2号棟高架水槽補修工事

図面リスト		
No.	図面内容	縮尺
		—
M-00	表紙・図面リスト・附近見取図	—
M-01	特記仕様書（1）	—
M-02	特記仕様書（2）	—
M-03	立面図	—
M-04	平面図（仮設高架水槽設置、仮設配管、内部接合部補修工事）	1:50
M-05	平面図（配管切り離し、既存高架水槽配管再接続）	1:50
M-06	仮設用高架水槽据付図 支持金物図	1:30
M-07	平面図（仮設配線図、配線復旧図）	1:50



工事場所：高知市北竹島町29番地1

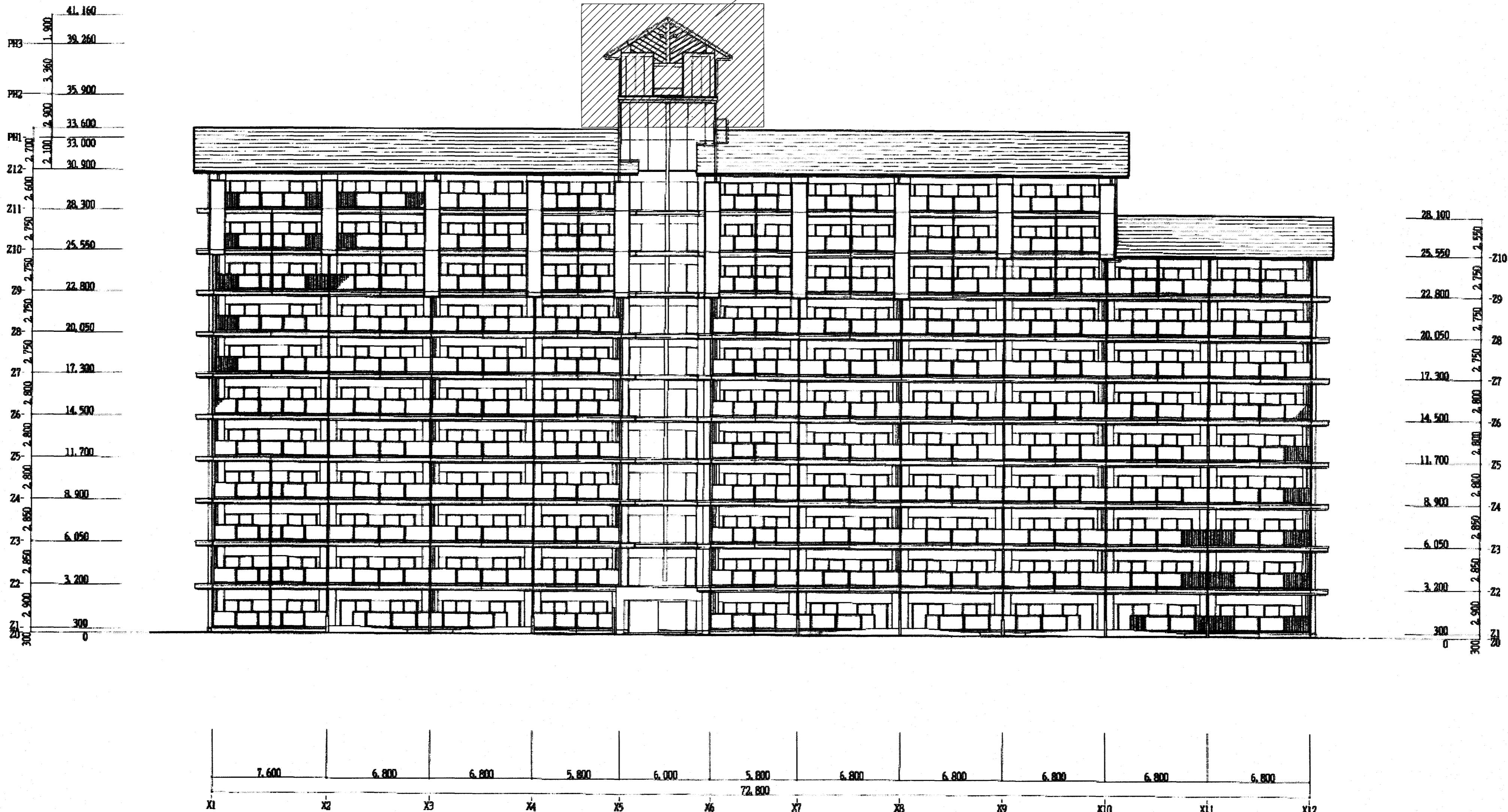
附近見取図

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																																																														
機械設備特記事項																																																																																																																																																																			
① 機器その他	<p>※ 記管表記 (1.1.7.4準拠) [1.1.8.5準拠]</p> <p>a) 機器室・ピット・P.S内・天井点検口・配管分歧場所には必ず表記する。 b) 表記内容は、流体・サイズ・系統名とし、場所・向き・文字サイズ等事前協議決定後に施工する。 c) 配管の識別は、原則としてJIS Z 9102によるものとし、識別方法・色合は監督職員の指示による。</p> <p>※ 記管表記(該当する主要機器は事前に確認する。)</p> <p>a) 設計記号の付いている主要機器には、カッティングシート等にて表記(管理番号・室名・設置年月等)を行う。 b) パッケージエアコン等の空調機は、室内機だけでなく室外機にも表記を行う。 c) 水中に設置する各種主要機器類は銅板(製造社名・製造年月・型番・性能等)を蓋付近にも設ける。</p> <p>※ 天井に開閉等を記入したアクリル札を取付け、風で飛んで噪音を立てないように固定するか、表示方法を協議する。</p> <p>※ 埋設弁ボックスには、内部に系統名・管サイズ・設置年月を書いたアクリル札を入れる。</p> <p>※ 埋設弁ボックスの蓋は、流体の先側に蓋の付根を向ける。</p> <p>※ 排水以外の屋外埋設管には、曲がり・分歧部・その他埋設管の位置が確認できるよう地中埋設標を設ける。</p> <p>※ 排水以外の屋外埋設管には、G.L-150mm程度に埋設表示用アルミテープを埋設する。</p>	<p>11 メカニカル維手</p> <p>※ メカニカル維手は伸縮可とう・離脱防止性能を有し、外面エボキシ粉体塗装を施したものとする。 ※ 改修工事等で配管類(ライニング管)を切断して、やむを得ずメカニカル維手を使用する場合には、切断部の防振処理として、J AWWA K 135規格適合品にて処置する。</p> <p>12 吊り及び支持</p> <p>※ 原則として下図に従う。詳細は国土交通省仕様による。 (2.2.6.3準拠) [2.2.4.3準拠]</p> <table border="1"> <caption>横走り管の吊り及び振れ止め最大支持間隔</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th colspan="10">呼び径</th> </tr> <tr> <th>15</th><th>20</th><th>25</th><th>32</th><th>40</th><th>50</th><th>65</th><th>80</th><th>100</th><th>125</th><th>150</th><th>200</th><th>250</th><th>300</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吊り金物による吊り</td> <td colspan="10">鋼管等 2.0m</td> <td colspan="4">3.0m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="5">1.0m</td> <td colspan="5">2.0m</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="10">鋼管等 —</td> <td colspan="4">8.0m 12m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="5">6.0m</td> <td colspan="4">8.0m 12m</td> </tr> </tbody> </table> <p>立て管の固定及び振れ止め箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">固定</th> <th colspan="2">鋼管等</th> <th colspan="2">最下階の床又は最上階の床</th> </tr> <tr> <th>鋼管等</th> <th>各階1箇所</th> <th>鋼管等</th> <th>各階1箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td>ビニル管等</td> <td colspan="2">各階1箇所</td> </tr> </tbody> </table>	分類	呼び径										15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m										3.0m				ビニル管等	1.0m					2.0m									形鋼振れ止め支持	鋼管等 —										8.0m 12m				ビニル管等	—					6.0m					8.0m 12m				固定	鋼管等		最下階の床又は最上階の床		鋼管等	各階1箇所	鋼管等	各階1箇所	形鋼振れ止め支持	ビニル管等	各階1箇所		<p>b) 維持管理を管理業者に引継ぐ場合は、直前に水質検査(BOD・SS・PH・大腸菌・塩素イオン)を行い、そのコピーを管理業者、施設管理者、監督職員に渡し、設計・施工・現況の注意事項を申し送ること。</p> <p>※ 見やすい場所に、型式・施工者名・設置年月・処理能力・放流水質を記入した銘板を設置する。</p>																																																														
分類	呼び径																																																																																																																																																																		
	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300																																																																																																																																																					
吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m										3.0m																																																																																																																																																								
ビニル管等	1.0m					2.0m																																																																																																																																																													
形鋼振れ止め支持	鋼管等 —										8.0m 12m																																																																																																																																																								
ビニル管等	—					6.0m					8.0m 12m																																																																																																																																																								
固定	鋼管等		最下階の床又は最上階の床																																																																																																																																																																
	鋼管等	各階1箇所	鋼管等	各階1箇所																																																																																																																																																															
形鋼振れ止め支持	ビニル管等	各階1箇所																																																																																																																																																																	
② 総合調整	<p>本工事に該当する工事項目に応じて、下記項目の総合調整を行い、計画書及び報告書を監督職員に提出する。</p> <p>a) 風量調整 b) 水量・水圧調整 c) 室内外空気の温湿度の測定 d) 驚音の測定 e) 室内気流及びじんあいの測定 f) 飲料水の水質の測定</p> <p>なお、季節により運転条件が異なる、使用開始から定常状態に入るまでに時間を要する等の理由により、工期内の測定完了が不可能な調整項目の対応については、監督職員との協議による。 (2.1.3.3準拠) [2.1.3.3準拠]</p>	<p>24 横</p> <p>※ コンクリート製の樹(工場盤作品)には、土上がり50cm程度に砂利又は砂等で基礎を施す。</p> <p>※ プラスチック製等の樹には、コンクリート製または既製の複合材製による基礎を施す。</p> <p>※ 蔵表面に設置されない樹の蓋は、周囲をモルタル等(厚さ10cm程度)により保護する。</p>	<p>b) 機器の振動が建物に影響を及ぼすおそれのあるものは、適切な防振措置を施す。</p> <p>※ 電動機等により振動を生じる機器及び配管の固定部にはダブルナットやストッパー bolt等により緩み・脱落防止措置を施す。ナットは、アイマークにより締付けが確認できるようにし、ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。</p> <p>【公共建築設備工事標準図(機械設備工事編) 準拠】</p> <p>※ 床又は壁に設置の機器で重量が大きく重心位置が比較的高い機器については転倒防止措置を施す。</p> <p>※ 天吊り機器には振止め用形鋼架台や斜材を用いる等して落下・傾き防止措置を適切に施す。</p> <p>※ 天吊り機器と吊り金物との接続箇所毎に防振装置を設ける。</p>																																																																																																																																																																
③ 配管材料	<p>配管の種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>屋内露出</th> <th>天井P.S内</th> <th>床下暗渠内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水</td> <td>(3)</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>仮設給水管は(16)</td> </tr> <tr> <td>排水・通気</td> <td>(15)</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>125A以上はVU</td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消火</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷媒</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機器ドレン</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷凝水</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 配管用炭素鋼管(JSG風管:JIS G 3452) (2) 配管用皮素鋼管(SGP白管:JIS G 3452) (3) 水道用硬質塩化ビニル管(管:SGP-VB:JWWA K 116) (4) 水道用硬質塩化ビニル管(管:SGP-VD:JWWA K 116) (5) 水道用耐熱性硬質塩化ビニル管(管:JIS K 6776) (6) 消火用硬質塩化ビニル外管被覆管(SGP-VS:WSP 041) (7) 排水用硬質塩化ビニル管(D-VA:WSP 042) (8) 配管用スリーブ鋼管(SUS 304 TP-A:JIS G 3459) (9) 一般配管用スリーブ鋼管(SUS 304 TP-D:JIS G 3448) (10) 断熱材被覆钢管(JGDA 0009) (11) 水道用架橋用リサイクル管(JIS K 6787) (12) 水道用リサイクル管(JIS K 6762)</p> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.2.1.2準拠) [2.2.1.1準拠]</p>	場所	屋内露出	天井P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考	給水	(3)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	仮設給水管は(16)	排水・通気	(15)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	125A以上はVU	給湯	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		消火	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		ガス	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		冷媒	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		機器ドレン	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		冷凝水	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		冷却水	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		<p>13 埋設管の保護</p> <p>※ 国土交通省仕様どおりに吊り配管等を施工しても、他の資材配管等と干渉する場合は振止めを適宜設ける。</p> <p>※ 屋外等で吊り金物による施工ができない場合には、プラケット等にて配管及び配管付属品を支持し、配管荷重による管の移動を抑える。</p> <p>※ 契約量水器までの埋設給水管及び埋設ガス管は管の周囲100mm程度に保護砂を入れる。</p> <p>※ 契約量水器以降の埋設給水管及び埋設消火栓は簡易保溫管で巻く。</p> <p>※ 排水管は管が移動しないように中心度まで埋戻す。ただし、土庄及び上蓋荷重が管きよの耐荷重を超える場合は、遮断用砂で巻立て、外庄に対して管きよを保護する。 (2.2.7.1準拠) [2.2.5.1準拠] [下水道排水設備指針と解説]</p>	<p>14 埋設深さ</p> <p>管の地中埋設深度は、原則として車両道路では管の上端より600mm以上、それ以外では300mm以上とする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。 (2.2.7.2) [2.2.5.2]</p> <p>15 防食措置</p> <p>※ 鋼管、船管のコンクリート内配管にはプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。 (2.2.7.3準拠) [2.2.5.3準拠]</p> <p>※ 地中に埋設する鉄筋管・鉄筋形管・メカニカル維手・特殊維手類にはポリエチレンストリーブ等の被覆を講じること。 [給水設置工事施工要領]</p>	<p>16 保温工事</p> <p>保温の種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>屋内露出</th> <th>機械室・基床</th> <th>天井P.S内</th> <th>床下暗渠内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水</td> <td>■■■■■</td> <td>b(b) VII</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>板設給水管は(へ)</td> </tr> <tr> <td>排水</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>屋内空調用ドレン管は保温材付き</td> </tr> <tr> <td>冷媒管</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>断熱材被覆钢管の場合</td> </tr> <tr> <td>矩形ダクト</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丸形ダクト</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弁・維手類</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>■■■■■</td> <td>保温材の厚さは各工種に準拠</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) ロックウール保温材 (b) グラスウール保温材 (n) ポリスチレンフォーム保温材 (5) 簡易保溫管 10mm (k) 簡易保溫管 20mm (h) 簡易耐熱保溫管 10mm (l) 簡易耐熱保溫管 20mm</p> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.3.1.1準拠) [2.3.1.1準拠]</p>	場所	屋内露出	機械室・基床	天井P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考	給水	■■■■■	b(b) VII	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	板設給水管は(へ)	排水	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	屋内空調用ドレン管は保温材付き	冷媒管	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	断熱材被覆钢管の場合	矩形ダクト	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		丸形ダクト	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■		弁・維手類	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	保温材の厚さは各工種に準拠	<p>29 別途工事</p> <p>・ スリーブ及び箱入れの補強筋 ・ 床点検口 ・ 洗面化粧台水栓及び排水金物 ・ レンジフードファン ・ 化粧鏡(多機能便所) ・ コンクリート基礎(・室外機 ・ 受水槽 ・ ポンベ庫 ・ 消火器 ・ ガス漏れ警報器 ・ 電磁調理器</p>	<p>30 支給品</p> <p>・ メーカーリスト</p>	<p>局部震度法による建築設備機器及び水槽類の設計用標準水平震度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">設置場所</th> <th colspan="3">耐震安全性の分類</th> </tr> <tr> <th colspan="2">特定の施設</th> <th>一般的な施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>上層階、屋上及び塔屋</td> <td>2.0 (2.0) [2.0]</td> <td>1.5 (2.0) [1.5]</td> <td>1.5 (2.0) [1.5]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>1.5 (1.5) [1.5]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> <td>0.6 (1.0) [0.6]</td> </tr> <tr> <td>1階及び地下階</td> <td>1.0 (1.0) [1.0]</td> <td>0.6 (1.0) [1.0]</td> <td>0.6 (1.0) [1.0]</td> <td>0.4 (0.6) [0.6]</td> </tr> </tbody> </table> <p>() 内の数値は防振支持の機器の場合、[] 内の数値は水槽類の場合に適用する。</p>	設置場所	耐震安全性の分類			特定の施設		一般的な施設	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	耐震クラス	S	A	B	上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) [2.0]	1.5 (2.0) [1.5]	1.5 (2.0) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	中間階	1.5 (1.5) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	1.0 (1.5) [1.0]	0.6 (1.0) [0.6]	1階及び地下階	1.0 (1.0) [1.0]	0.6 (1.0) [1.0]	0.6 (1.0) [1.0]	0.4 (0.6) [0.6]
場所	屋内露出	天井P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考																																																																																																																																																													
給水	(3)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	仮設給水管は(16)																																																																																																																																																													
排水・通気	(15)	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	125A以上はVU																																																																																																																																																													
給湯	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																														
消火	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																														
ガス	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																														
冷媒	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																														
機器ドレン	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																														
冷凝水	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																														
冷却水	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																														
場所	屋内露出	機械室・基床	天井P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考																																																																																																																																																												
給水	■■■■■	b(b) VII	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	板設給水管は(へ)																																																																																																																																																												
排水	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	屋内空調用ドレン管は保温材付き																																																																																																																																																												
冷媒管	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	断熱材被覆钢管の場合																																																																																																																																																												
矩形ダクト	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																													
丸形ダクト	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■																																																																																																																																																													
弁・維手類	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	保温材の厚さは各工種に準拠																																																																																																																																																												
設置場所	耐震安全性の分類																																																																																																																																																																		
	特定の施設		一般的な施設																																																																																																																																																																
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																																																																																																																																															
耐震クラス	S	A	B																																																																																																																																																																
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) [2.0]	1.5 (2.0) [1.5]	1.5 (2.0) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]																																																																																																																																																															
中間階	1.5 (1.5) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	1.0 (1.5) [1.0]	0.6 (1.0) [0.6]																																																																																																																																																															
1階及び地下階	1.0 (1.0) [1.0]	0.6 (1.0) [1.0]	0.6 (1.0) [1.0]	0.4 (0.6) [0.6]																																																																																																																																																															
④ 配管付属品	<p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。 (2.2.1.2準拠) [2.2.1.1準拠]</p>	<p>17 塗装</p> <p>既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 (2.4.1.3)</p> <p>18 はつり工事</p> <p>19 非破壊検査</p> <p>20 あと施工アンカー</p> <p>21 パッケージ形空気調和機</p> <p>22 ダクト及びダクト付属品</p> <p>23 合併処理浄化槽</p>	<p>24 横</p> <p>はつり、穴開け及びあと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場所を鉄筋探査器により探しし、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 (2.4.1.1)</p> <p>新當工事においては、原則としてあと施工アンカーは使用しない。 (2.5.1.3)</p> <p>使用する場合には、工事の着手に先立ち施工計画書を作成し、監督職員の承認を受ける。あと施工アンカー作業における技能者は、あと施工アンカー工事の施工に関する十分な経験と技能を有するものとする。</p> <p>機器仕様</p> <p>a) グリーン購入法達成基準適合品とし、各メーカーの最高効率機種とする。</p> <p>b) 室外機仕様</p> <p>・ J R A耐震構造仕様 ・ 防振構造仕様 ・ 防振装置 ・ 防振波対策仕様</p> <p>c) 室内機仕様</p> <p>・ ドレンアップメカ ・ 自動昇降バネル ・ 防振装置 ・ 振止め金物</p> <p>工事仕様</p> <p>a) ドレンアップメカにより排水する場合は、機器直近にて鳥居状に配管し、立下り部直上に掃除口を設ける。</p> <p>b) 配管仕様バーは、エンドキャップを使用しテープ巻きの範囲を最小限とし、ジャバラ部材は使用しない。</p> <p>c) 配管仕様バー、配管ラッピングは室外機の直近まで施す。</p> <p>d) 室内機及び室外機への電源送りは電気設工事とし、室外機間の渡り電気配線及び室外機-室内機間の電気配線(アース含む)は配管、配線共工事とする。渡り配線で、冷媒配管と同じルートを施工する場所は同配管外装内に納める。</p> <p>空調ダクト材料</p> <p>※ 亜鉛板製 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VU) ・ ステンレス製</p> <p>換気ダクト材料</p> <p>※ 亜鉛板製 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VU) ・ ステンレス製</p> <p>屋外フード</p> <p>ウェザーカバーはステンレス製・給排気形・水切り付きとし、ペンドキャップはステンレス製・深型・水切り付きとする。</p> <p>・ 淨化槽の使用開始後概ね3ヶ月間の試運転調整を行う。浄化槽法による「保守点検及び清掃等」のほか下記の事項による。</p> <p>a) 最低限の点検回数は、小型・沈殿分離方式は月に1回、流量調整槽のある場合は2週に1回とする。</p>	<p>25 防振施工</p> <p>26 転倒・落下・傾き防止</p> <p>27 特定天井への対応</p> <p>28 耐震施工</p>	<p>29 別途工事</p> <p>30 支給品</p>	<p>施設の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の施設 ○ 一般の施設 <p>地域係数</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.0 設計用鉛直地盤力 設計水平地盤力の1/2 <p>重要機器</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災機器 火を使用する機器 タンク類 消火設備機器 																																																																																																																																																													
5 スリーブ	国土交通省仕様とする。ただし、水密を要する部分は配管用ステンレス鋼管及び水膨張性ゴムリングを用いる。 (2.2.2.7準拠)																																																																																																																																																																		
6 支持材料	<p>※ 1階間コンクリート下部配管は、ステンレス製吊りボルトにてスラブ筋に支持する。</p> <p>※ 屋外及びピット内配管の支持金物・形鋼振止め金物・吊り金物・インサート金物・アンカーボルトはステンレス製とする。</p> <p>※ 形鋼振止め支持部材の選定は、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)に準ずるものとし、既製品は使用しない。</p> <p>※ 冷媒管の吊り用支持受け材として、断熱材被覆钢管と吊り金物との間に保護ブレードを設ける。</p>																																																																																																																																																																		
7 さや管工法	さや管ヘッダー工法で施工する場合、さや管施工後に配管挿入を行い、同時施工としない。																																																																																																																																																																		
8 变位吸収配管施工	<p>※ 建築物導入部及びエキスパンションジョイント部は、フレキシブルジョイント等を使用した方法で施工する。</p> <p>※ 埋設管の屋外内接続部では、地盤沈下等の変位に対して可とう維手、伸縮可とう維手を設ける等の措置を講じる。</p> <p>設計図面に個別の記載がない場合は、伸縮維手、自在維手を使用してもよい。</p>																																																																																																																																																																		
9 フランジ接合	※ 埋設管と露出配管の切替部(配管立ち上がり部)に伸縮接手を設ける。																																																																																																																																																																		
10 融着接合	ポリエチレン管融着接合作業における技能者は、十分な経験と技能を有するものとする。																																																																																																																																																																		

高知市都市建設部 公共建築課

工事名	係	係長	課長補佐	図面番号
北竹島町市営住宅2号棟高架水槽補修工事				山田
図面名	特記仕様書(2)	更新日	2023.7.1	作図
				M-02

工事場所



立面図 S=NON

訂正		備考		株式会社オーエス・エンジニアリング Original Systems Engineering 高知市甘代町6番13号 TEL:088-820-5450	係 	係長 	課長補佐 	課長 	工事名称 北竹島町市営住宅2号棟高架水槽補修工事	
									図面名称 立面図	日付
										図面番号 M-03

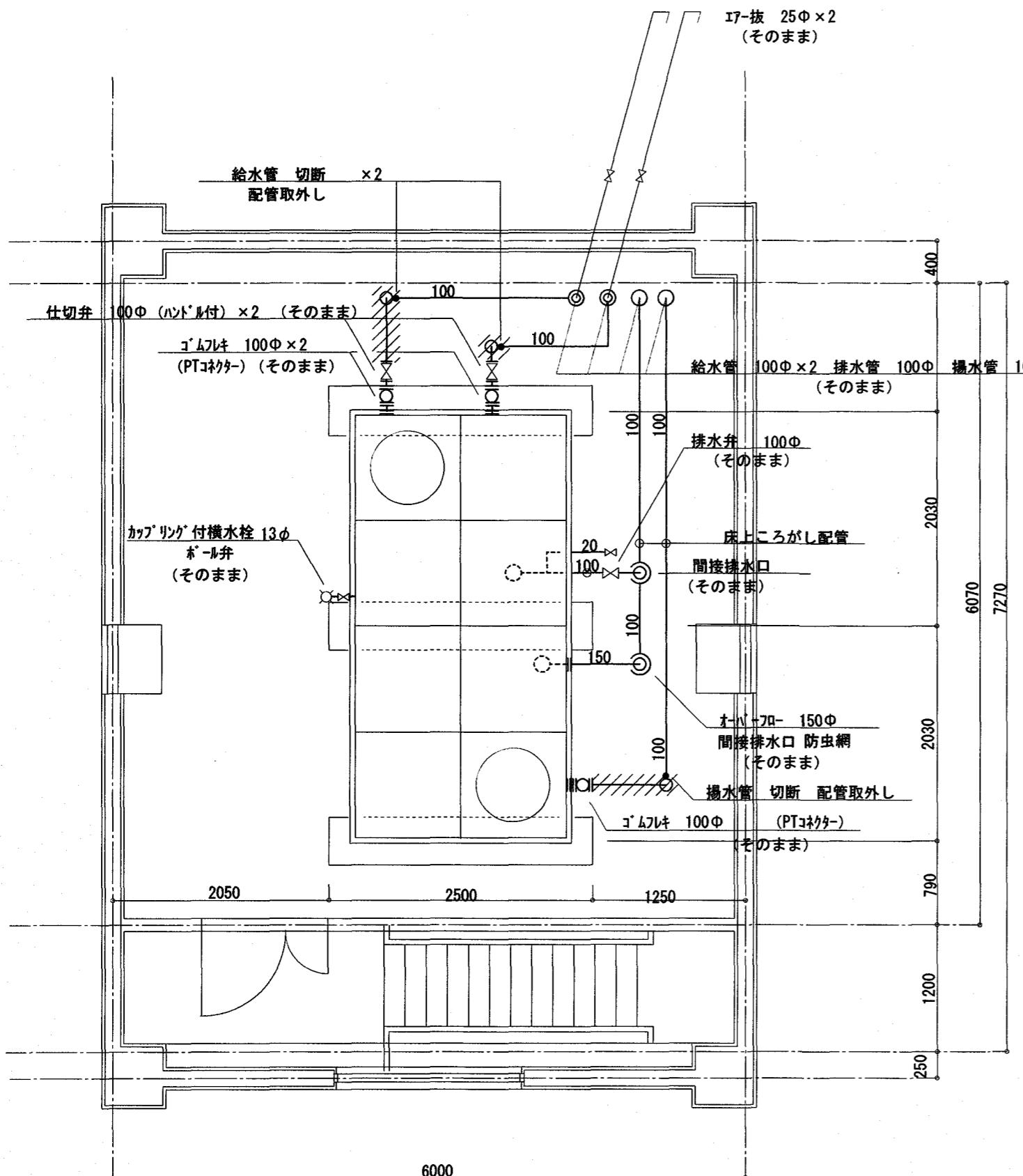
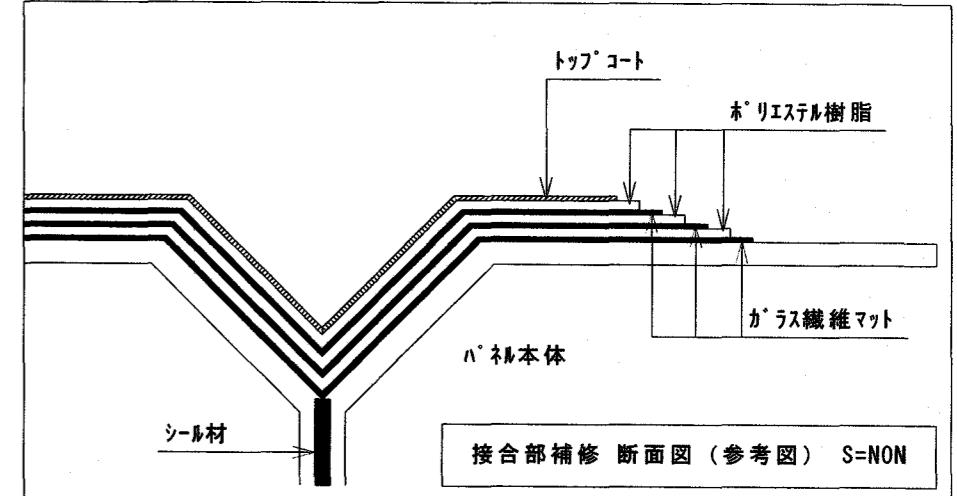
工事概要	
仮設用高架水槽を設置	水槽下部にはH形鋼 H-200×200×8×12を設置
既存揚水管の切断部より水槽まで配管延長	
仮設用高架水槽より150φにて既存給水管100φ 2箇所に配管接続する。	
既存揚水管100φへ配管接続	
バタフライ弁 100φ×2 150φ×1 ゴムフレキ 150φ×1を取付	
オーバーフロー管は既存排水管100φGPIに配管接続	
既存高架水槽への揚水管 100φ VLPを切断取り外し	
既存高架水槽よりの給水管 100φ VLPを取り外し×2	
高架水槽へ内部接合部補修工事を実施	

既存高架水槽 仕様	
F R P 製 サンドイッチ ポート	
4000 × 2000 × 2000H (容量 16m ³) 耐震仕様 1.5G	
亜鉛ドア 漆喰骨架台 H=500	
コンクリート製基礎 450W × 2500L × 400H × 3	
揚水口 100φ 給水口 100φ × 2 オーバーフロー 150φ	
排水口 100φ	
内外梯子 マンホール 2箇所 通気口 錠前 × 2	
電極座 × 1 電極 5P	

仮設用高架水槽 仕様	
F R P 製 サンドイッチ ポート	組立式 耐震仕様 1.5G
3000 × 1000 × 2000H (容量 6.0m ³)	
亜鉛ドア 漆喰骨架台 H=500	
揚水口 100φ 給水口 150φ オーバーフロー 100φ	
排水口 50φ	
内外梯子 マンホール 通気口 錠前	
電極座 × 1 電極 5P	

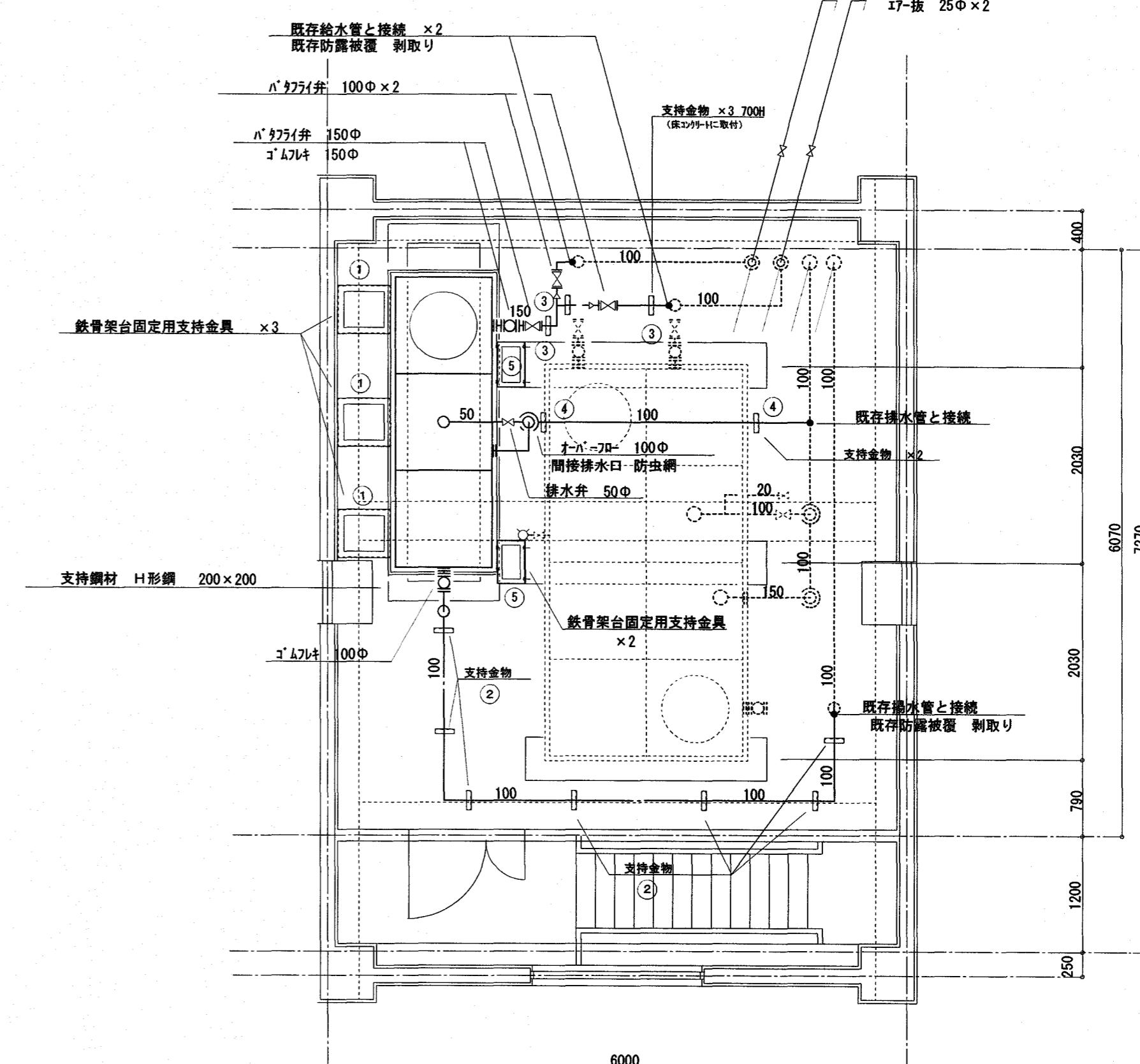
※実質工期1.0ヶ月程度

既存の高架水槽 内部接合部補修工事 仕様	
接合部 補修手順	
前処理	排水後に点検調査 強制乾燥 安全対策実施 ライング部分清掃 サディング
下地処理	FRPライング 標準積層構成ガラスマット: # 450 × 3PLY
乾燥	点検調査
清掃・消毒・検査	
プロコートボルト・ナット (PVC被覆)への取替を施工する	



既存高架水槽 平面図 S=1/50

註) 図中斜線部 配管撤去



仮設高架水槽設置及び仮設配管 平面図 S=1/50

訂正	
備考	

備考

株式会社オーエス・エンジニアリング
Original Systems Engineering
高知市廿代町6番13号 TEL:088-820-5450

係

係長

課長補佐

課長

工事名称 北竹島町市営住宅2号棟高架水槽補修工事

○

○

○

○

○

△

△

△

△

△

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

□

□

□

□

□

○

○

○

○

○

△

△

△

△

△

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

□

□

□

□

□

○

○

○

○

○

△

△

△

△

△

×

×

×

×

×

□

□

□

□

□

○

○

○

○

○

△

△

△

△

△

×

×

×

×

×

□

□

□

□

□

○

○

○

○

○

△

△

△

△

△

×

×

×

×

×

□

□

□

□

□

○

○

○

○

○

△

△

△

△

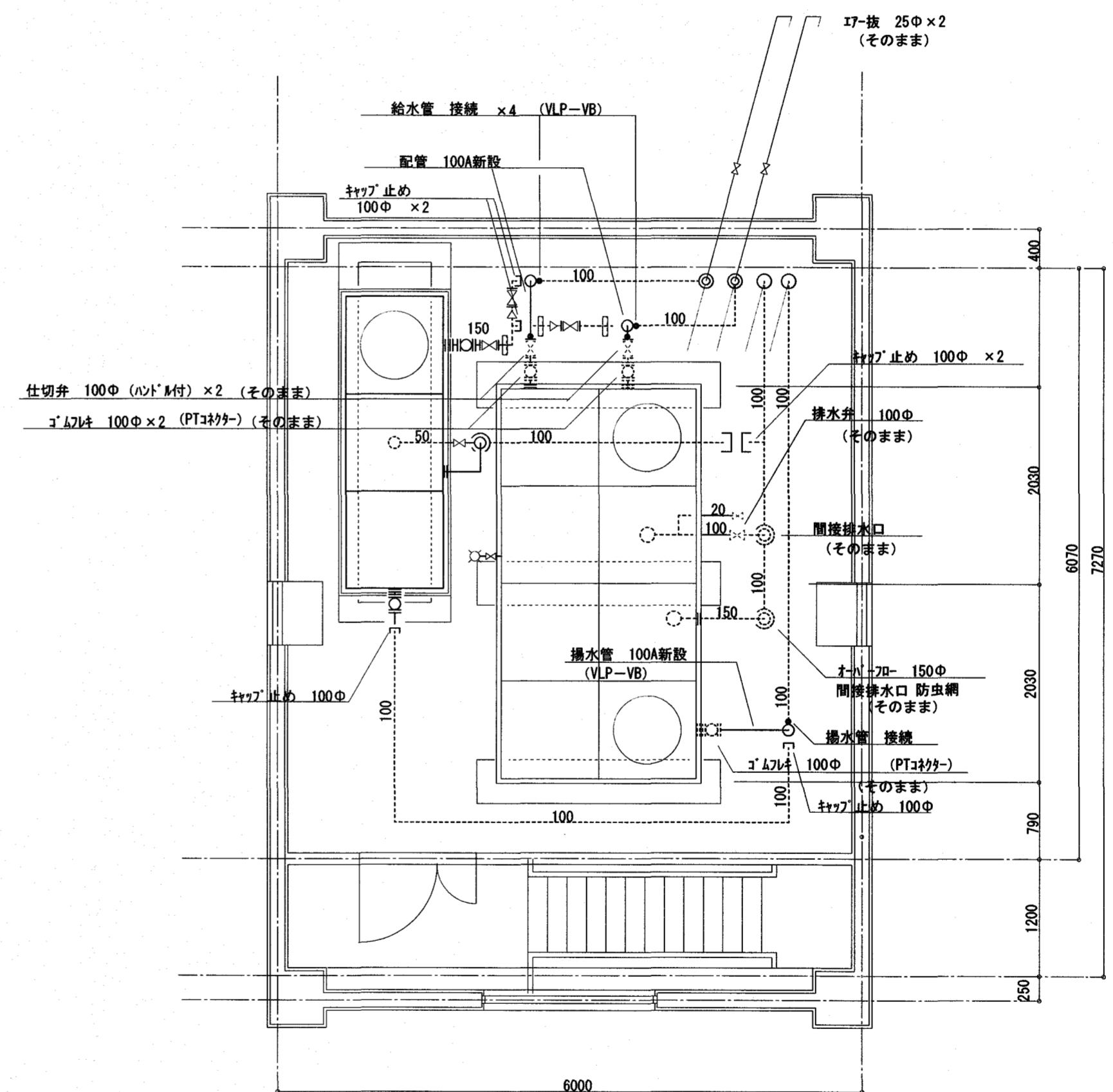
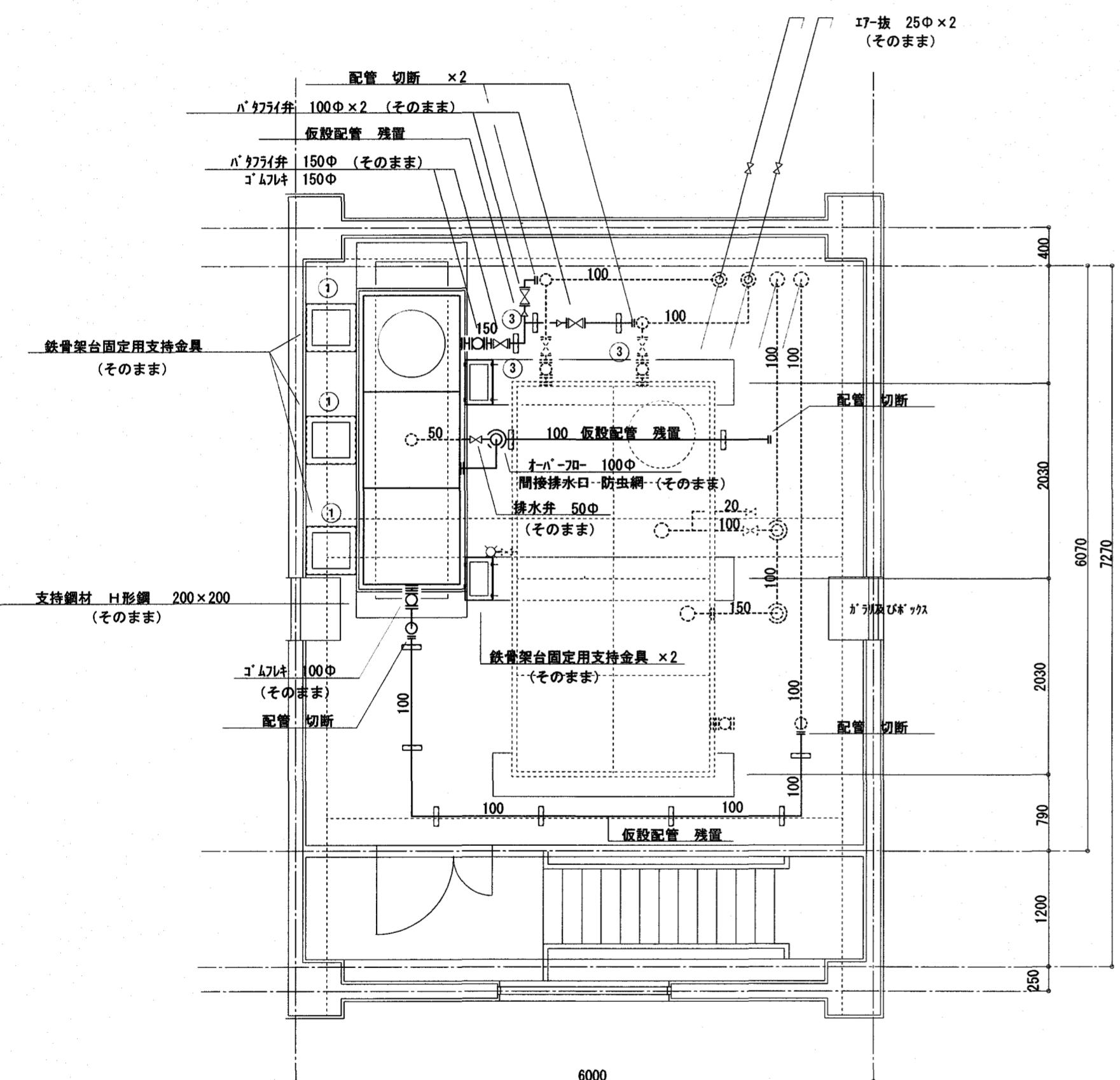
△

×

×

×

工事概要	
仮設用高架水槽及びH形鋼はそのまま	
既存揚水管の切断部より仮設水槽までの延長配管切離しキャップの上、残置	
ゴムフック 100Φ×1 はそのままとし配管はキャップ止め	
仮設用高架水槽より150mにて既存給水管100Φ 2箇所に接続した配管切離し	
仕切弁 150Φ×1 ゴムフック 150Φ×1はそのままとし配管はキャップ止め	
周囲の配管は残置	
排水管は横引部残置 既存排水管接続部キャップ止め	
既存高架水槽の揚水管接続配管を一部新設し復帰 保温被覆施工	
既存高架水槽の給水管接続配管を新設し復帰 保温被覆施工	
補修後 清掃 消毒 水質検査11項目を行う事	



訂正

備考

株式会社オーエス・エンジニアリング
Original Systems Engineering
高知市廿代町6番13号 TEL:088-820-5450

係

係長

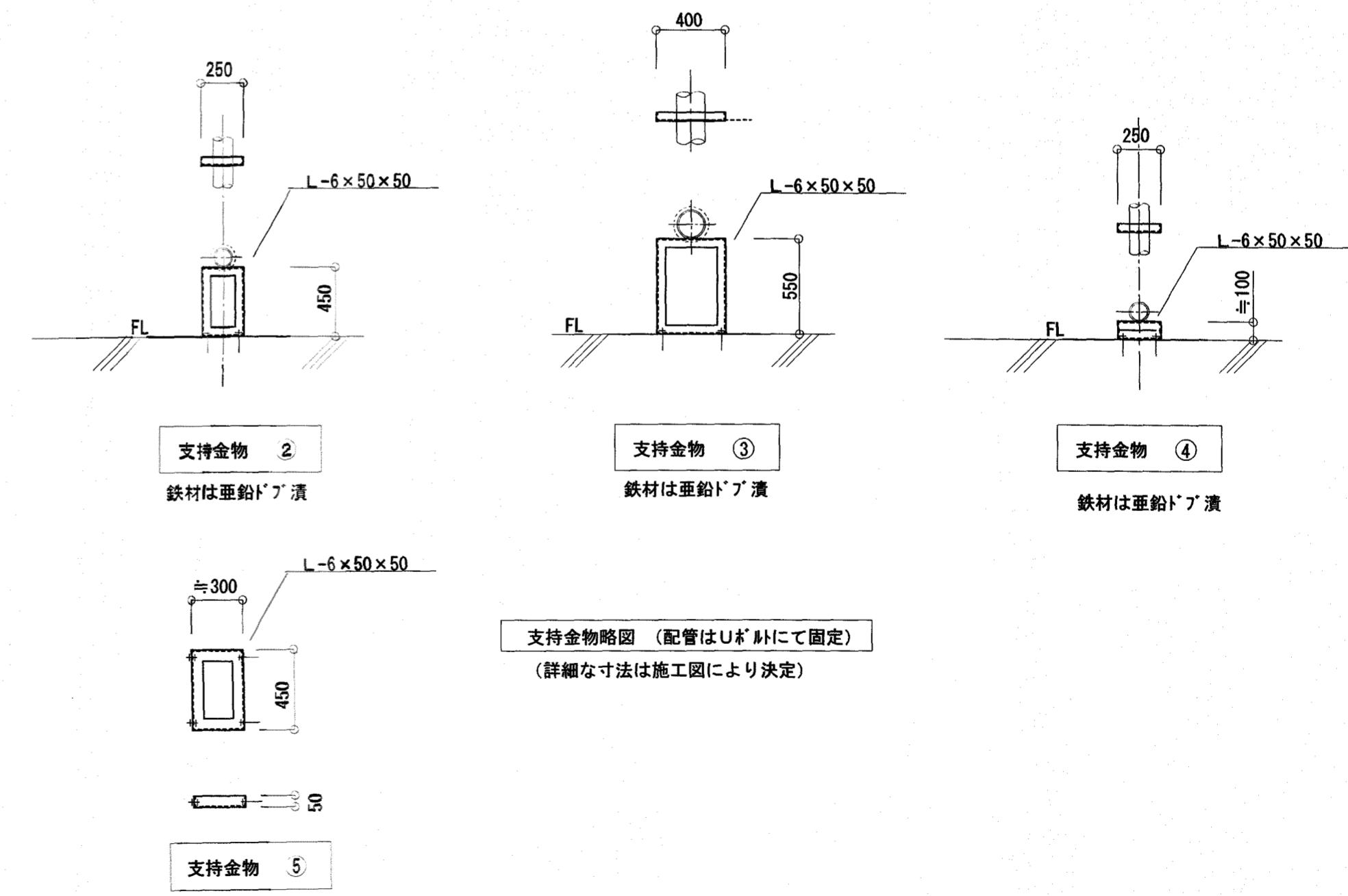
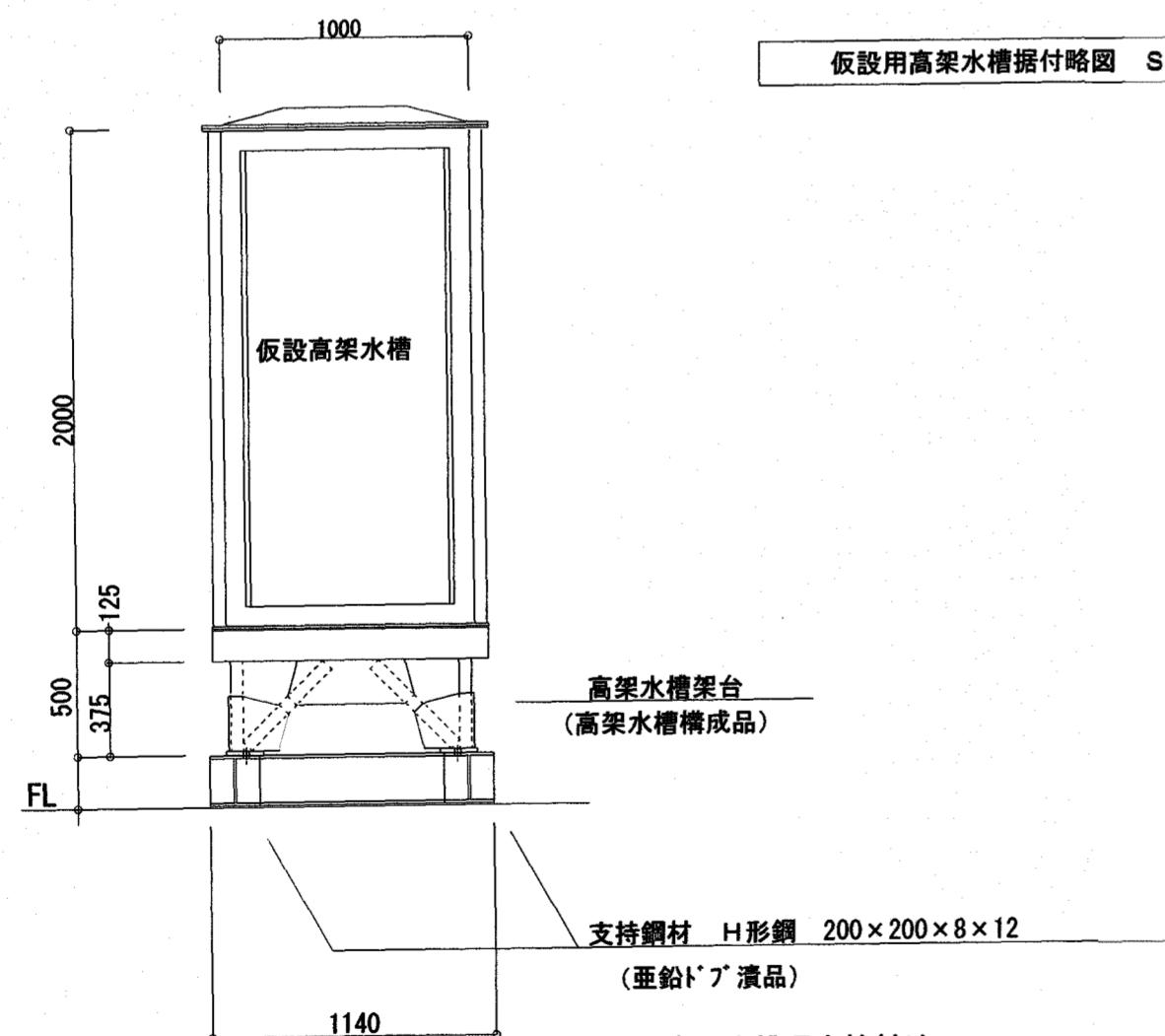
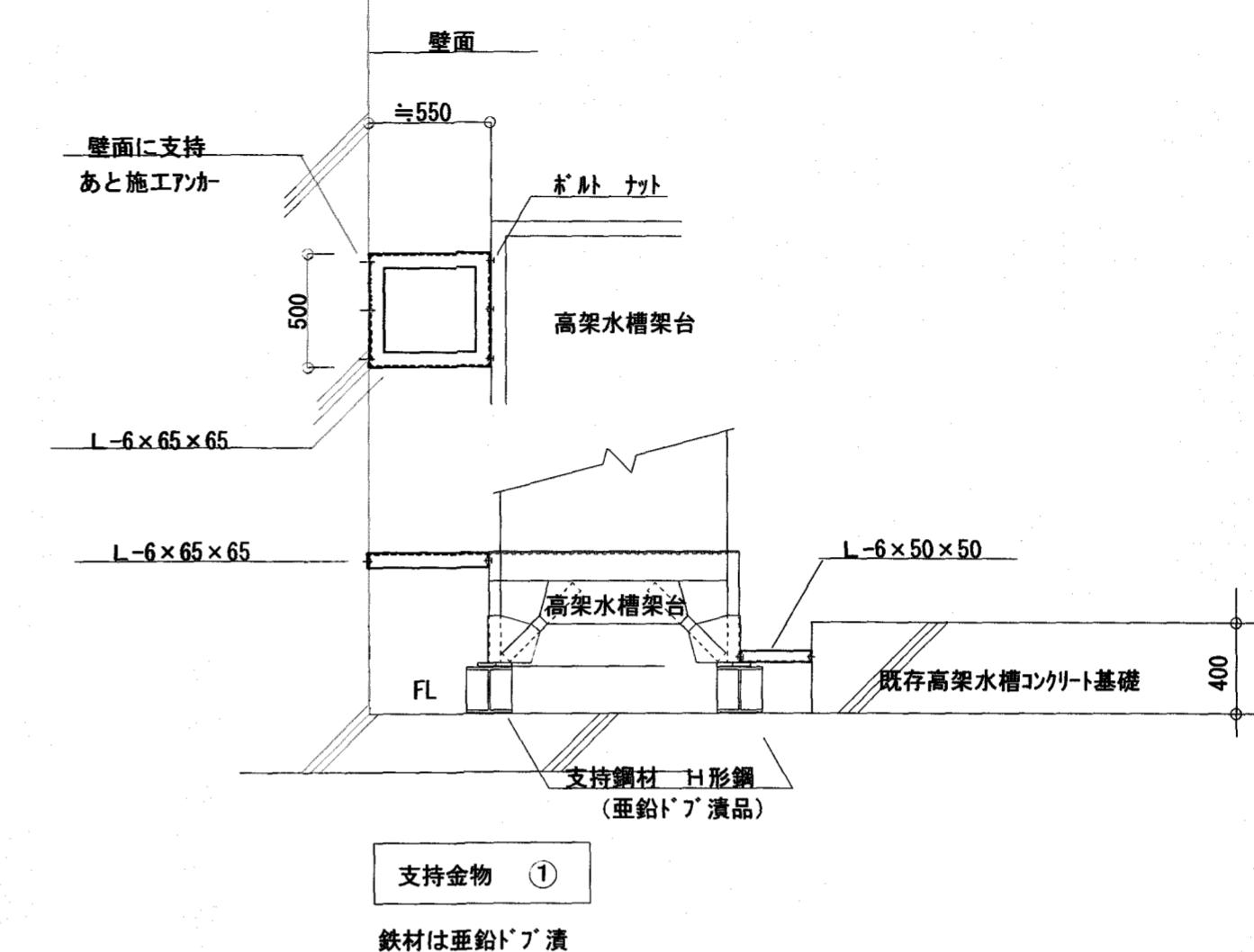
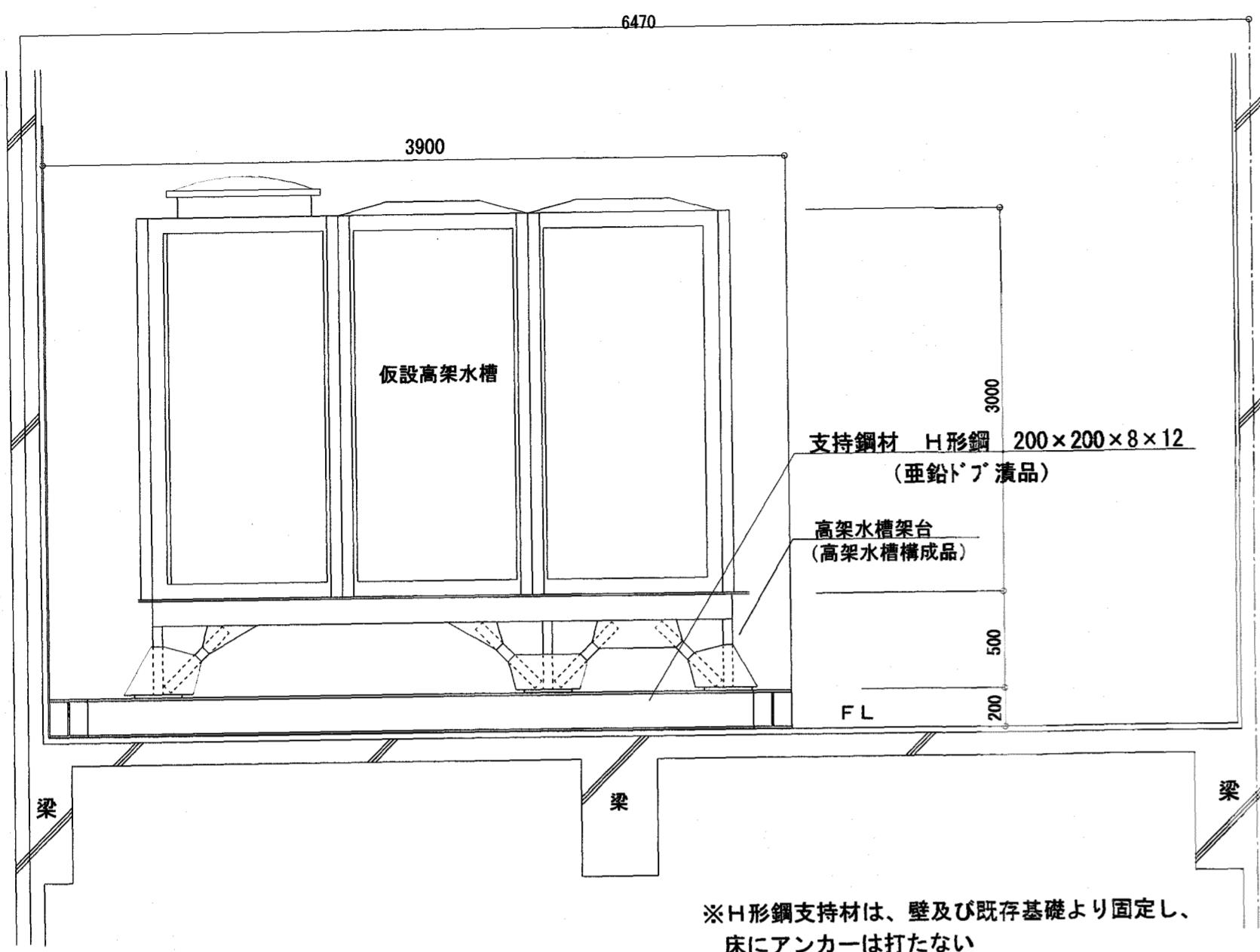
課長補佐

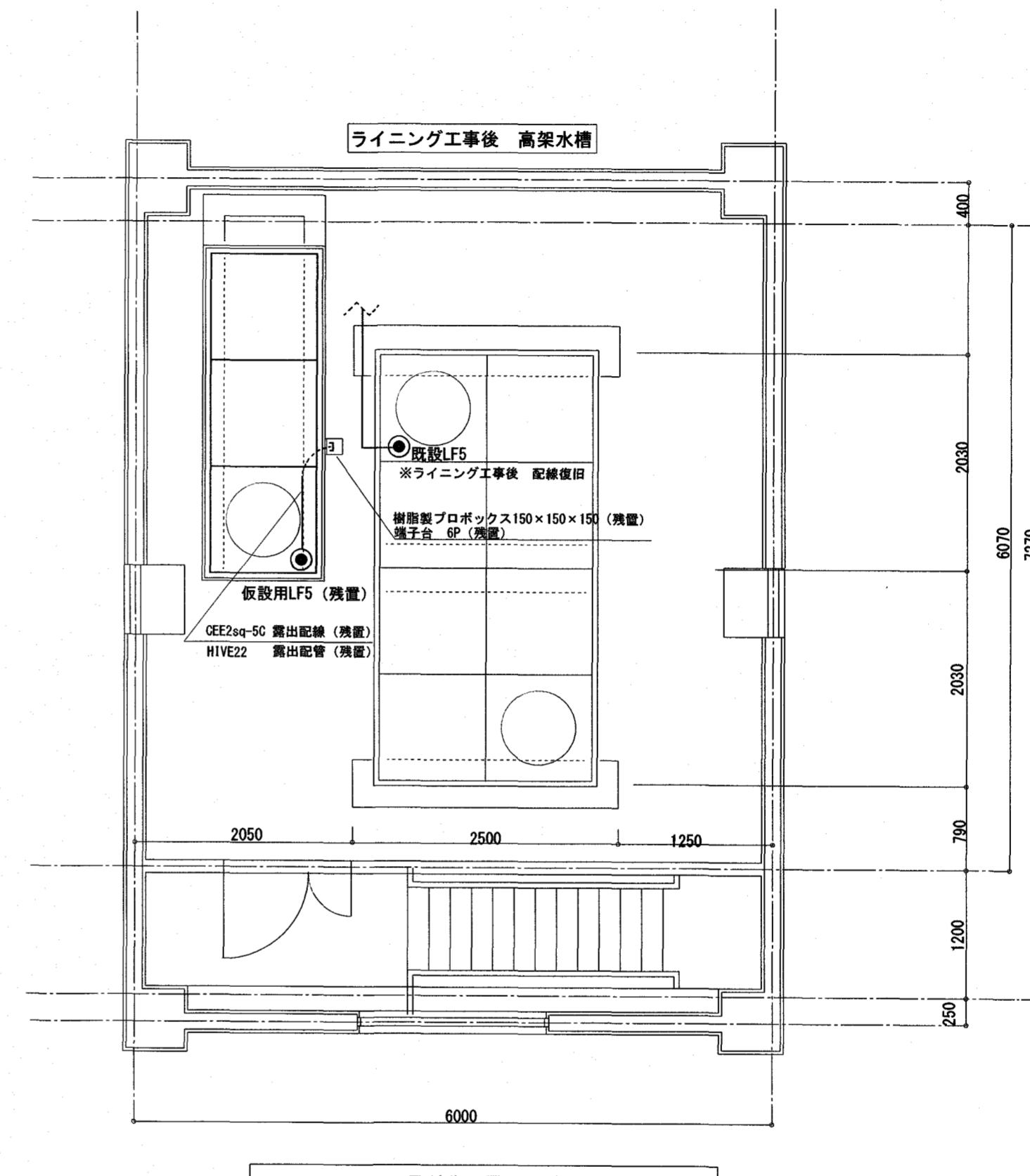
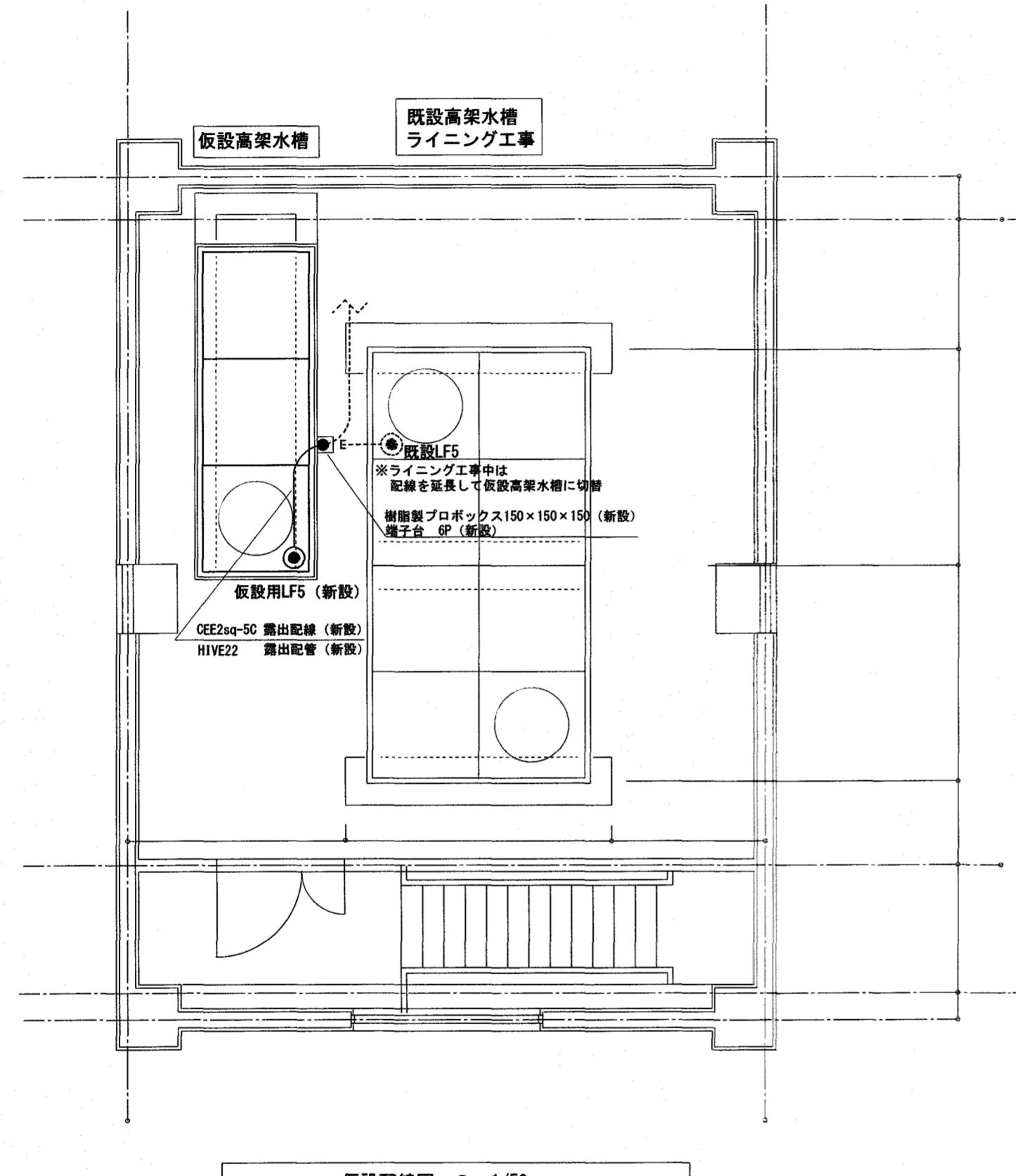
課長

調理員

工事名称 北竹島町市営住宅2号棟高架水槽補修工事

図面名称 平面図(配管切り離し、既存高架水槽配管再接続)
日付
換印 作図 検尺 S=1:50 図面番号 M-05





訂正

備考

株式会社オーエス・エンジニアリング
Original Systems Engineering
高知市廿代町6番13号 TEL:088-820-5450

係

係長

課長補佐

課長

工事名称

北竹島町市営住宅2号棟高架水槽補修工事
平面図(仮設配線図、配線復旧図)
日付
印

作図

基尺

S=1:50

図面番号
M-07